

わくわくわくわくキドキキの読み聞かせ会

from 新栄小学校

七月二日(水)・三日(木)と二日間
にわたって、読み聞かせ会が行われ
ました。

新栄小学校では、児童の読書活動に
力を入れています。読書週間には、
お勤めの一冊を紹介する読書カードを
書いたり、そのカードを特定の相手に
届ける読書郵便を行ったりしています。

また、木曜日の朝は、保護者や地域の
方々による読み聞かせを行っています。

とりわけ子どもたちが、わくわくド
キドキしながら楽しみにしているのが、
講師の方をお招きしての読み聞かせ会
です。教職員も児童と一緒に読み聞か
せを楽しみながら、その手法を学んで
います。

「読み聞かせ」というと、子どもたち
に本を見せながら、音読をしている姿
を想像する方が多いのではないかと思
います。しかし、この読み聞かせ会は、
全く違います。一つのお話の中に、本
は全く登場しないのです。講師の方が
自分なりに内容を解釈して、相手に伝
えるのです。

「みんなは、もう短冊書いたかな」と
いう子どもたちへの質問から、読み聞
かせは始まりました。七夕の織姫と彦
星のお話です。折り紙を使った切り子
の作り方や、短冊に書く願い事は、「○

○がほしい」ではなく、「○○になり
たい」と自分の努力目標や夢を書か
なくてはいけないことなども教えてい
たきました。

これからも新栄小学校は、読書活動
を進め、心豊かな子どもたちを育てて
いきたいと思います。



第七十話

三菱重工南工場の進出(上)



昭和二十
六年、朝鮮
戦争の最中
に、ダグラ
ス調査団が
日本の航空
機生産能力
の調査を行
いました。
生産能力が
あることを
確かめ、三
菱重工に飛
行場のある工場を造ることを求めてき
ました。

第一候補は大府飛行場でした。戦争
中に陸軍の重爆撃機「飛龍」を製造して
いた工場があり、滑走路もありました。
知多半島の山を削り、谷を埋めて造っ
た飛行場です。調査したところ、三千坪
の格納庫(現在の第一格納庫に使用)が
一棟残っていました。滑走路がジェ
ット機の飛行には短かったので、断念
しました。

次は清洲飛行場を調査しました。現
地調査に行ったところ、見渡しても青々
とした水田が広がる
ばかりで、飛行場ら
しきものは見えませ
んでした。老人に聞
くと、「戦争中に陸軍
に強制買い上げされ

たが、終戦になったら我さきに田んぼ
や畑に戻ってしまった」ということで
した。

第三に、名古屋港の国際飛行場を調
査しました。戦争中に大江工場で製造
した海軍機を鈴鹿航空隊まで空輸して
いたところ。入場の許可をもらっ
て中へ入ると、米軍通信隊の鉄柱が林
立っており、必要な滑走路を確保する
ことができませんでした。

第四候補として、浜松に行きました。
今は航空自衛隊の浜松基地になってい
るところです。浜松は名古屋と離れず
ぎており、従業員の通勤ができないこ
とから、断念しました。
今は昔の物語です。
(豊山町文化財研究会の郷土文集を参
考にしました)

